

アジア・オセアニア重要サンゴ礁ネットワーク構築事業

33百万円（20百万円）

自然環境局自然環境計画課

1. 事業の必要性・概要

サンゴ礁生態系は、生物多様性の宝庫であると同時に、天然の漁礁や防波堤として食料供給や防災の観点からも重要である。生物多様性条約の愛知目標においても、サンゴ礁の健全性と機能の維持や、海域・沿岸域の保護区の設定等による保全が盛り込まれ、我が国の生物多様性国家戦略 2012-2020（平成 24 年 9 月）においても、国際的なサンゴ礁生態系保全の推進に貢献することとしている。

我が国は、サンゴ礁を持つ数少ない先進国の一つとして、サンゴ礁保全の国際協力の枠組である「国際サンゴ礁イニシアティブ（ICRI）」に設立当初から積極的に参加している。平成 26-27 年度は ICRI 事務局を務めることにより、国際的なサンゴ礁保全を主導する。また、平成 22 年度に日本が中心となって策定した「ICRI 東アジア地域サンゴ礁保護区ネットワーク戦略 2010」

（地域戦略）の実施及びフォローアップを通じて、東アジア地域におけるサンゴ礁保全の重点的な推進を図る。

2. 事業計画（業務内容）

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
(1) ICRI 共同事務局							ICRI 共同事務局	
(2) 地域戦略の実施及びフォローアップ	データベースのバージョンアップ		初期的ギャップ分析	関連生態系情報や越境保護区、取組事例等情報整備		管理効果評価と保護区等に関する能力開発ワークショップ		データベース
	サンゴ礁分布図の作成と公開						地域戦略の実施点検	
		地域戦略の策定		地球規模サンゴ礁モニタリングネットワークの活動推進				

3. 施策の効果

ワークショップの開催等を通じてアジア・オセアニア地域をはじめとしたサンゴ礁管理者の能力の向上を図ること、またサンゴ礁の世界的なモニタリングを推進することにより、国際的なサンゴ礁保全を推進し、愛知目標の達成に資する。

# アジア・オセアニア重要サンゴ礁ネットワーク構築事業

33百万円(20百万円)

## 背景

- サンゴ礁は様々な価値を有する生態系であるが、世界的に劣化
  - 生物多様性保全上の価値、防波堤の役割(防災機能)、地域経済上の価値(漁業資源、観光資源)
  - 高水温による白化、オニヒトデの大発生等、水質悪化により世界的に劣化
- サンゴ礁保全分野での日本の貢献は国際的に高く評価
  - 日本はサンゴ礁を有する数少ない先進国の一つであり、国際サンゴ礁イニシアティブ(ICRI)の発足当時(平成6年)から積極的に推進。2009年のICRI総会では、地球規模サンゴ礁モニタリングネットワーク(GCRMN)の地域ごとの体制強化が求められた。
  - ICRIの中での役割分担として、アジア・太平洋については日本が中心的に牽引(欧州がアフリカ・インド洋、米国がカリブ海地域)
- 海洋保護区ネットワークに関する国際的目標
  - 持続可能な開発に関する世界首脳会議(WSSD)(2002年)において「代表的海洋保護区ネットワークを2012年までに構築すること」が実施計画として採択。生物多様性条約COP10(2010年)においても海域の10%の保護が愛知目標に盛り込まれた。
  - 平成19年11月第3回東アジア首脳会議において、福田総理が各国と協力して「重要サンゴ礁ネットワーク戦略」を策定することを表明。平成22年、わが国の主導により、「ICRI東アジア地域サンゴ礁保護区ネットワーク戦略」を策定。
  - 平成25年6月の「地球温暖化防止とサンゴ礁保全に関する国際会議」(沖縄県)において、島しょ国の閣僚を含む参加者の共通認識として、生物多様性保全、食料供給、防災等の観点から、サンゴ礁生態系の保全の今日的な重要性が確認された。

## 事業内容

### (1) ICRI共同事務局 (H26~27)

先進国メンバーで持ち回り。前回はH17~19に担当。

- ICRI総会の開催
- ICRIウェブサイト管理
- ICRIメンバーとの連絡
- 国際会議に出席しICRIを代表

### (2) 地域戦略の実施及びフォローアップ (H23~27)

- 「ICRI東アジア地域サンゴ礁保護区ネットワーク戦略」(地域戦略)の推進のため、
  - サンゴ礁保護区データベースの充実
  - サンゴ礁分布図作成と公開
  - 地域戦略の実施点検
  - GCRMNの活動推進